

神戸経済大学校歌 商 神

しょうしん あやなす つばさをあげて
 れいじょう はるかにはがしをさせば
 くしきこのみはくもまをもちて
 あきつーしまねはおつとそみえしと
 こーろはここぞきくすいかおるみ
 なとがわらのちかきほとりに
 かくつたわりしあめのさとしも
 ひとはまとらでいくとせかへぬ

神戸経済大学校歌 商 神

1. 商神彩なす燭をあげて
靈杖遙に東を指せば
靈しき果実は雲間を満りて
秋津島根に落つとぞ見えし
所はここぞ雨水かふる
湊河原の近きほとりに
かく伝わりし天のさとしも
人はさとらで幾年か経ぬ
2. 神の息吹のこもりて成りし
靈果いかで地に朽つべき
豊栄のぼる朝日のかげに
八州の外の潮風吹きて
いつしか催す気運に乗じ
わが学校ぞ世に生まれたる
眠る商界夢さますべき
使命は天の授けし所
3. 此処摩耶の山六甲の峰
連り亘る山ぶところに
致の若鷹はぐくまれ居て
静かにうかぶ雲の行きかひ
朝妙なる琴のひびきは
敏馬の浜に松を吹く風
夕やさしき舞の姿は
茅渚の浦曲に白帆行く影
4. 希望に満てる春の潮の
寄せてはかえず清き渚や
熱誠もゆる夏の盛りを
いたわる風の葎合の里
須磨や明石をかけて照るらん
月には物のあわれをぞ知る
冬は靡たる後に嵐
奔馬空行く勢示す
5. 天れ山水の秀麗の気は
偉人傑士を起しむとかや
天の使命を胸に収めて
清き自然に抱かれながら
筋骨鍛え智徳を研く
切磋琢磨の三年の春秋
美い得たるうつ勃の意気
抱負を語れや千余のおのこ
6. 金吹無欠の三千余年
かどやく光は剣の蒼
心はみなじ大和男子の
我等は牙を執って起ちかん
日出ずる旗を高くかざして
日入らぬ国と手を携えて
目指す平和の戦の場に
匂う御国の花ぞ咲かせむ
7. 雄飛の時ぞとねぐら離れて
野に立出ざる蒼鷹幾羽
爪も研ぎぬ力も足りぬ
尋にも余るつばさを張れば
枝の百鳥皆おそれ伏す
扶搖万里の風を起して
おのが向々東に西に
雲に突き入る勢見るや

日本水連にも申す

古 林 喜 楽

がたる会で水連の理事に会ったので早速、なぜ日本がオリンピックで金メダルをとるごとに、泳法の規則をかえるのか。メルボルンで古川が優勝するや、モグルのを禁止し、今度は田口がミュンヘンで優勝するや、何センチ以上深くけてはならないと規則をかえる。なぜこのような勝手なことをするのに、日本の理事たちはだまっているのか。この時とはかりに詰めよったところ、その理事が言うことには、規則は変っていない、審判の判定にひっかかっただけだ。

それにしては田口が可哀想だ。英文の規則をとりよせ、辞書と首っぴきで、新しい泳法をつきとめ、毎日のように泳法をつきとめ、毎日のように泳法をかえるのに苦心していた。そのため一年間タイムが落ちた。ようよう今年になって、六秒台がでるようになってこぎつけたのである。地元の水連の人たちに聞くと、いや規則は変えられたのだと言う。どちらがほんとなのか。それならそうと最初からわかっていたら、今ごろ田口は自分のレコードに挑んでいたであろうに。私はいま地団太を踏んでいる。田口はいま(八・十四)イラン行きで合宿の猛練習にふけっている。これを

彼の耳に入れたら、彼はどんな思いをするであろうか。折角彼が苦心して自らもみ出した泳法を変えた途端であるだけに、私はどうしたものが迷っている。

今度のアジアの選手権大会に、中国の参加を世界水連は拒否した。ほかのスポーツでは、中国が次から次へと参加しているのに、なぜ水泳だけがこのようにかたくななのか。アメリカでは黒人の水泳選手がない。陸上では金メダルが沢山出ているのに、水泳では一人も黒人が、プールに姿をあらわさない。裸のプールで一緒に泳ぐのに白人はひっかかるのであろうか。同じアメリカ人同志で、このような区別がなされているのであるから、どうしても中国の参加に踏みきれないのであろう。それなら、それならばこそ、日本の出る幕となるのである。日本の水連は、中国の参加になぜもっと努力しないのであるか。

今日日本で水泳は、男子は広島、女子は大阪となった。男子の選手は、ぞくぞくと広島に集まっている。男子水泳のメッカになった観がある。ミュンヘンのオリンピックでも、男子選手は大半が広島勢であった。すべてこれらの選手は、徳田コーチが、あの手この手の苦心で育てあげたのである。選手個人々々の性格・くせ・好き嫌いをすみずみまで呑みこんで、個別にちがった鍛えかたをした。選手たちは徳田氏をおやじのように思っ、なついている。だから相当きつい訓練にもついてくる。全く水泳のコーチ・監督のモデルのようなかたである。田口などは一時、徳田氏がわが家

へ引きとって、わが子のごとくに可愛がった。ここまでやるコーチがどこにあるであろうか。ミュンヘンのとき、合宿の岩手県のプールの水がつめたかっかので、女子選手たちは甲羅を以して猛練習に欠ける場所があったという。徳田さんなら、あの手この手で、うまく泳がしていたであろうに。徳田さんをミュンヘンへ派遣するコーチにしなければ日本の水連は、一大失態であると思ふ。田口金のメダルで、水泳王国日本の復活の兆しがでてきた矢先であるだけに、私は水連の猛反省を促したいのである。

凌雪クラブ御紹介

学22 石井 義章

数年前から、姫路の山口君(新5)をガキ大将に、姫路近辺の凌雪仲間ですキーを身に、マス料理と地酒を楽しむ会と云うのが出来ております。

毎年二月の終か、三月の初に神鍋へ集まるのですが、年によつては雪がなく、コタツスキー論だけに終る事もあります。それでも結構楽しく、いつでしたか、野田君(新9)の様にタオル一本ぶらさげてはるばるやって来るのも居ます。

常連の中で、平岡君(新11)はSAJ公認の一般ですが、他は自称指導員、或はデモンストレーターでコタツの中でスキー論で

も戦はせれば一流で、時にはスキーは口につけて滑るものだったかしらと錯覚を起す程です。

今年三月九日夜より神鍋に集まったのですが、どうした都合か、集まりが悪く、山口君、萩原君(新10)平岡君、それに私の四人だけになってしまいました。

それでも、その夜はふけるのも忘れて汲み交し、談論風発。折から降り出した雨に、明日は滑れないと見たか、山口君が例に依って独自のスキー理論を展開、眉に唾つけつけ押聴。その中、萩原君が訳の分らぬ事をブツブツ言い出した。先生酔っぱらったかなと思っていると、平岡君がしきりにまじめな顔して相づち打っている。こりや平岡君には分るらしい。さては俺の方がいかれて来たのかなと思う中に、萩原君バツタリ後に倒れてそのままグーグー高寝。平岡君に彼、何を言っていたのかと尋ねるとサッパリ分らぬとの事で大笑い。十二時近くなったので明日に備えて眠るべしと、萩原君にかかったが、呼べど、たれどグーグー。遂に山口と平岡で手尼かかえてや々と床に納める始末。

さて、この日話合っている中に、もっと広く仲間呼びかけて同志をつのり、人数がふえればもっと楽しくかろうと、クラブ結成にたちまち衆議一決。会名は凌雪クラブとし早速今日を設立発起人会として、来春二月に神鍋で設立総会を開こうと云う事になった次第。

会則その他、詳細は未決定ですが、正会員は凌雪会員である事、

その他に家族会員とか、賛助会員（競泳会員ではないがどうしても入れてくれと云うやつ）等を作ろう。しかし、何れの会員も少くとも百米は泳げなければならぬと云う一項を折り込もうと考へております。

参加御希望の方は山口君又は小生迄御連絡下さい。来年の会合には御案内差上げます。（ここで終つてはスキークラブの紹介に
ならぬ）

明けて十日はやはり雨、うらめしく空を見上げる中、十時頃になつて小降りになつて来た、折角来たんだからと一同グレンデに向う。着いた頃は日も差して来た。しかし、三月の神鍋、加えて雨上りとあつては雪質の良からう筈はない。所々ブッシュの出かかった、シャーベットの様なグレンデを滑る。

山口君、昨夜の大風呂敷にたがはず、八〇Kの巨体で雪を押し分け、けちらし激快に滑る、技術面については、それぞれ流派のある事とて差し控える。

萩原君は、性格そのままにオットリと、しかしガンコに自己の流派を守つて黙々と滑る。

平岡一級氏は、今日に備えてのオニユウのバックに靴（何でもシューズもオフに近いぞと、ショップのおやじ脅迫して半価で仕込んで来たとか）が足に合はず、半べソかいて、雪の上にはだして墜り込んでしまった。

小生、今シューズ初めて試みた一七〇cmのショートスキーを着

用、サッソウと滑りかけたが、日頃六甲山の人工スキー場で子供相手に滑つていたのと勝手が違い、凸凹の、ザラザラの、ベタベタの雪で足を取られ、コブの頭、三ツ程まで切りにして、前跳び三回ひねりエビ型の要領で突込み腹部ネンザ。

それでも皆、大したケガもなく機嫌よく二時頃迄滑り、帰途につく。

と思いきや、このまゝ帰つては競泳会の名にかかると、広畑は新日鉄のプールへ直行。そこで又百米混メとか何とか変なレースでコッテリしぼられ、サウオで毒気を抜かれて、十時頃フラフラになつて我家にたどり着いた。殺されなかつただけがせめてもの幸。

まあこんなグループです。

よかつたらお入り下さい。

以上

先輩・部員・後援会

一

新22 家 本 博 一

大学の部・同好会において、たとえそれが体育関係であろうとなかろうと、先輩と現役部員の「タテ」の関係はつねに存在する。

しかし、現役部員間の関係という意味での「ヨコ」の関係ではなく、現役部員と学生後援会の関係という意味での「ヨコ」の関係は、全国八八〇余大学にみても、わが神戸大学と東京大学の二校に見られるだけである。もっとも、東京大学にある「東大を優勝させる会」(野球)には、部関係者以外の者が多数参加しているとのことゆえ、純粹に学生だけで構成され運営されている後援会は、わが水泳部学生後援会だけと自負している。いささか「てまえみそ」の感もないではないが、これぞ学生後援会の心意気である。

二

学生後援会は昭和四七年四月に発足して以来、一貫して現役部員の御側役として御世話いたして参りましたが、そのなかで、特に我々後援会にとって喜ばしきことは、歴代の主将・主務および現役部員が我々の活動を邪魔物扱いにせず、進んで部活動の「タシ」にしてくれたことである。これに関しては、とりわけ、藤井元洋・佐敷定雄・長谷川健・瓜生誠二郎そして大曲芳郎の五氏に心からなる感謝の言葉を申し上げねばならない。我々のごとき活動にとって最も重要と思われれることは、現役部員が、我々の活動を足場にして一段高い飛躍を遂げ、更なる飛躍への意欲を燃やしてくれることである。現在、一・二・三年生である部員には、將來の活躍が十分期待されうる逸材が多岐みうけられるのであり、我々後援会としては、彼らのより一層の頭張りを切に期待するも

のである。

三

伝統ある「渡泳会」の先輩諸氏と我々の後援会の関係が未だ希薄であるのは誠に残念なことであるが、我々の知りうる範囲の先輩の方々を拝見したところでは、古林喜楽会長以下すべての先輩諸氏が「渡泳会」の名のもと、神戸大学水泳部に在籍されていたことを誇りとされているように感じた。これはまことにすばらしいことであり、我々非会員にとってうらやましい限りである。私も高校時代野球部に在籍していた経験をもって関係から、自分の在籍していた「部」を他人に誇ることのできる程うれしいことはないと思知している。出身部が準決勝に進出すれば、いともたつてもいられず球場にかけつけるといふのは私だけではないと信じる。先輩というのは、どんな小さなことでも「出身部」のことなら気にかかるものだ——と言う話を耳にするが、先輩とは実にありがたしいものだ。現役部員はとかく、部の構成メンバーとしての「先輩」を忘れることがあるが、専任コーチのいない現状ではとくに、先輩に御出馬を仰ぐ必要があるのではないか。現役部員は是非ともこのことを考慮していただきたい。この提言は、現役部員の戦力強化のためのそれだけではなく、先輩と現役部員の最も宜幹たる関係の改善のためのそれでもある。

四

水泳部と後援会の双方にとっての年中行事は、毎秋開かれる、

「神戸大学々内ソフトボール大会」である。現役部員は大概九月中旬をもってそのシーズンを終るため、それ以後約一カ月間の陸上トレーニングを兼ね、ソフトボールを部員全員で行なうのであるが、その成果がここ数年やっとしてきたようで、一昨年四位（一七二チーム）、昨年三位（二六一チーム）と漸時その力を伸ばしつつある。水泳部が「オカ」で頑張るとは何事か——と怒りの言葉が飛んできそうだが、とかくシーズン・オフには起りやすい「チーム・ワークの弛み」がこれくらいでも是正されれば、あながち無駄なことではないと思う。今年こそは優勝をと念じているが、先輩各位におかれても、毎秋十一月の土・日曜日にくりひろげられる水泳部の活躍を、どうか応援してやって下さい。現役部員が——たとえそれがソフト・ボールにしても——「優勝」の味を覚えることはなにかの「刺激剤」にはなると信じる。

最後に、先輩各位におかれましては、少なくとも凌泳総会或いは九月納会にご出席下さり、現役部員に動ましの言葉などかけてやって下さり、加えて、後援会への御指導・御鞭撻を願ひ上げる次第であります。

見上げた空は、もはやあの陰鬱な梅雨の空ではなかった。雲の白さが一層蒼さをひきたてている空にあるのは、ちの泣きだしそうな空から時々覗いていた臆病そうな太陽ではなかった。自らの輝きを誇っているかのような大胆な光の固りであった。直線的なその光は、私の目に突き刺さり、私の内部の何かを大きくゆさぶった。そしてその光は、私の目に痛みを残した。

泳ぎながら茫然と見ていた夕陽

最後の弱々しい微笑さえも溶してしまった蒼い水

凝縮された一瞬

それらは確かに遠い日々の事だった。しかし、今、私の内部で湧きあがり、これほどにまで躍動しているものは何なのか。そしてこれほどにまで心せかせ、私を熱くしているものは一体何なのか。再び見上げた空には、全ての生命の根源である熱い固りがあった。——私はまだ太陽に愛されている。蒼い水にもう一度抱かれたい。——その時、私はそう呟いていた。

そしてその日から、私に夏が帰ってきた。

水泳と自分

経済学部三年 上 田 敏 彦

全く高校の時は、水泳とは縁遠いハンドボールと違ってバスケットボールとよく似た球技をクラブ活動としてやっていました。この球技は中学生のときからまる六年間やってきました。どういふわけで、大学に入って水泳を選んだのか、その理由として、自分自身との闘いというものを水泳を通じて経験したかったのだという事です。今まで団体競技ばかりやっていた自分が、一人になってみて、自分がどれだけやれるのか、試してみなかったのです。一年の時は、四百米を完泳するのに、百米行っただけ、又50m行っただけ、佐敷さん達に「もう行けません」と根を吐いて吐いたことを、今になって、段々えましい思い出として、思い出されます。そうして入部して一カ月も経過するうちに、皆さんと一緒にメニューがこなせるまで泳力がつくようになりました。そして月日が流れて、私も今は三年生。フリーだけはまあまあ人並みに泳げるほどになりました。ここに私のベストを載せておきます。いずれも自由型です。

一〇〇米 一分十二秒

二〇〇米 二分四十七秒

自分としては、自由型の短距離を得意としています。ただ、スタミナ不足を克服すれば、記録は短縮できると確信して、これからも練習に打込んでいく所存であります。

話は水球の方へ移りますが、今年の三商大戦は一橋には大差で市大には僅差で負けたのでありますが、私はキーパーとして両試合に出場したのであります。一橋戦では両チームの技術の差がまのあたりに見せつけられた感じでした。泳力に於いては我チームが秀れているが、ボールのキープ力とか、ハンドリングに大きな欠陥が存しているようです。来年は是非ともこの欠陥を癒し、市大には完勝するぐらいのチームになりたいと思います。

雑記

主務の大曲さんが口が酸っぱくなる様に、原稿を持って来い。持って来い。と言う。何か書かねばと思いつつも、ペンを持つと頭には闇があるだけで、ペンが進まぬ。他の二年や、三年が積極的に執筆してくれたら責を免れる積りでいたが、どうも大局は芳しくない。書くのはそう嫌いではないから、(実は小説家の如き自由業に憧れてるのである。)まあ靈感の湧く儘ペンを走らせてみよう。

区切りがある様にペンも休息。その間三分。近頃は皆、特に学

生は読み書きが拙劣だと言われる。我輩自身がそうだと自覚して
いる。そして又、近頃頃に考えさせられる事だが、文を書こうと
思うには、思想関係の文を創るには、高度の熟慮と理論構成が必
要だと言うことだ。日頃気軽に話すのを、文字に置換えてみる
と、かなり苦勞する。つまり文章にすると、日頃の考えが敷衍で
終わってしまうのである。それを分析してみると、会話は一時的な
ものであり、場面を有してゐる。が文章が書かれる時と読まれる時
とは、全く同一の場面を持ち合わせることは全くないだろう。
その逆の場合がかなりあり得るのである。がこの処に逆説的に文
章の普遍性があるのではないか。文が生き延び、存続するからこ
そ、言い換えれば歴史を越える永遠性を有するからこそ、歴史の
中に生きる我々人間には、その文が、一時的でしかあり得ないの
である。

さて、確か我輩が小学生の六年の初冬の夕暮れ時（炬燵が置いて
あったから）そう、金曜の七時半。テレビの番組名を記憶して
いるから、それほどまでに印象が強かったのである。子供の頃右
足骨折、幼稚園の時左手小指切断近い傷を負ったが、入院するこ
とは無かった。入院なんて考えもしなかった。それがである。突
然腹が痛み出したのである。食事前だから食い過ぎといふことは
まずはない。湯腹がキリキリと差し込みそれも周期的に痛むので
ある。もしかと思ひ当ることがある。小六でもそれ位の常識はあ
る。右か左か。ちあ右ではないか……。一瞬目の前が真暗になっ

た気がした。そこで親に話すと、さっそく車を呼んで近くの内科
医へ連れて行って呉れた。この老医者は同学年の田淵君も承知し
ている。彼は我が家へ遊びに来て、急に腹痛を催し、（この事は
我が輩にとつていたく心痛の至りである。）この医者に見て貰っ
て治ったという名医である。話を進めよう。診察室のちの特有
な臭気の中で、寝台に横にされた。「先生！ 盲腸ですか！」
絶望の中でも一筋の望みを懸けるのは我輩の最も誇りとする性格
である。その老医者は腹のちろちろを押えて「痛いか？ どうだ。」
と有りだけ。そのたびに重苦しい圧迫感が体中を支配する。そし
て次に目に飛びこんで来たのは、大きな注射器である。我が輩は
生まれてこのかたこれほどの代物を見たことがなく、その時程度
胆を抜かれた事はない。尻に注射する気がしない。病院へ行くまで
の応急処置なんだな。まあ入院するけど仕方がないとあきらめて
しまふと痛みがすうっと消える気がして来た。すると人間は現金
なもので途端にトイレへ行きたくなった。それも我慢できなくな
って来た。あわてて、トイレへ……………。

医者が話すには、便秘だったという。ちあそれでは注射器と思
ったあの大きな物は……………。

紛争を知らない学生たち

P 24 山 田 麻理子

六甲台のこのプールは四季それぞれ顔を持ち、毎年ひとつ年を取る。

浄化装置の故障したプールは、ケガをした病人のように元気がなく、そうじをした後のきれいなプールは、何となくハツラツとして見える。

部長がたくさん集まって練習している日は、にこやかに笑い、ほんの少ししか来ない日は悲しそうな顔をする。

プールに訪ずれ、そして去り行く若者たち全てを知り、静かに見守る。ある時はきびしく、ある時はやさしく、ある時は無感動に。

十八才の春から二十才の秋まで、私の見てきたプールは、毎年違ったものであり、その表情は毎日変わった。ただ変わらないのは、いつもちたかく迎えてくれたこと。私にとって最も居心地の良い、落ちつける場所であった。

T 24 川 本 典 子

我々は、紛争を知らない学生たちである。一九七二年、私が神大に入学した時には、既に紛争らしき紛争は終わっていた。紛争前の大学が、現在とどれ程異っていたのか、私は全くと言って良い程、知識を持ちあわせていない。知りたいとは思っているが、どういふ理由か知ろうとはしない。

水泳部に入部した当時、私には気になる物が一つあった。部屋の前戸棚の上に置いてあったヘルメットがそれである。NONと白ペンキで書かれた黒ヘルメットが、埃をかぶって何も知らぬ気に、何時も同じ場所にある。誰がかぶっていた物なのか。何処で活躍した黒ヘルメットのか——。

紛争が激しかったのは、私が中学一年のころから高校一年のころまでの四年間であった。私は、神大付中に在学しており、運動会や送別会に、紛争を風刺した寸劇などをするために、友人が住吉寮までヘルメットを借りに行ったりしていたのを知っている。その友人が、「寮の中はすどいでえ。ピラばっかしや。」と書いていたのを思い出す。なるほど、当時赤塚山にあった教育学部の校舎も、壁という壁には貼紙がされていて、子供心に撞れてきたあの重々しく厳肅な大学のムードなど、ひとかけらもなかった。

そして、紛争のシンボルであるかの様なヘルモットは、学生の手から中学生の手に渡って、単なる寸劇の小道具に変身して、私の目の前でワッショイワッショイと震れていたのだ。また、ちよつとした事件もあつた。付属中学で毎年催す「たそがれコンサート」に自衛隊のブラスバンドが出演することになっていたので、神大のヘルモットをかぶつた連中が校長を相手に論争の末、ブラスバンドを追いかえしてしまつたのだつた。

考えてみれば、私も色々な所で紛争に触れてきた様だ。しかし、私は外野にすぎず、やはり、紛争を知らない学生であることは確かである。

我クラブのA氏は腹を振っていて機動隊にしょつ引かれた経験の持ち主だと聞いているし、B氏は封鎖して試験ポイコットをやつたというし、C氏はデモに参加したこともあるという。また、その当時は、大多数の学生が何らかの形で紛争に関係していたとも聞いている。だが、紛争経験者の先輩方は、あえてその事に触れようとはなさらない。そして、紛争を知らない我々以降の学生は、当り前の様に平穩な学生生活をしているし、思想的対立が原因で崩壊したクラブがあつたことなどは夢ではないかといつた錯覚にさえ陥るのである。

紛争を経て、大学は変わったと言うが、その大学に集り学生はと言えば、大学という流行に遅れまいと、確固たる信念など持つ間もなくドッと入学してきたのが大多数であるから、今の大学は

これでいいのかと聞かれたところで、即答などできよりはすがない。だから、大学が変わつていようといまいと、そんなことはどちらでも良いのだ。ただ、多くの問いかけがなされた時、形は違つても、再び紛争が始まるであろうことは、確かだと思ふ。私は過去にあつた様な暴力を伴う紛争を望んでいるのでもなければ、始まると言つていられるでもない。ただ、学生は常に紛争を起こすに足る疑問とエネルギーとを持っている様に思ふし、そうであつて当然とも思ふ。

今、大学は自由だ。数年前、朱と黒の立看板と貼紙と、そしてバリエードとで紛争色に染まっていた大学キャンパスも、今ではすっかりその色を落としてしまつてゐる。学問をする者、フォークを歌う者、スポーツをする者。今、大学はバラバラだ。何色にも染まらず、何色をも呈さず、円くもなく四角もなく、混沌とした中で、何処かにエネルギーが蓄積されて行く様な気配。私は、そんな気配をいつも六甲台のプールで感じる。今まで過ごした二シーズンは平穩であつたか、果してこのプールに水飛沫の上からない夏がやって来はしないかと思つたりする。そんな事はあるまいとは思ふものの、冬のプールの静けさは、何かしら不安を感じさせるのである。冬の間に蓄積されたエネルギーは、きつと水泳に費されるに違いないのだが、冬の間に私の心の中に生まれつた小さな紛争は、春とともに水の中に消えてしまふのだから。

紛争を知らない我々は、このままならきつと、たつた四周期の

単音を発して、大学を去るだけになってしまふだろう。それではあまりにも悲しい。紛争は自分の中にある。自分の心に大学とは、学生とはと問うことが紛争だ。人生は、人間はと問うことが紛争だ。既に二週間の単音を不本意にも発してしまった私は、今、こうして自問自答している。

花盛りの一人ぼっちが

一人ぼっちの花盛りである事
の味は保証できない料理法

講師 サウスボーの雀鬼

まず私の自己紹介から。私は自己中心型絶対願望肥大症患者の一人であるわけで、悪いことには同時に誇大妄想教信者で、その上、劣等感をベースにした虚栄心カクテルの中毒者ですので、以下の文章は、御想像通りのものとなりますが御許し下さい。

さて、「私という存在は、存在しない存在だ。」というのが現在の私の私自身に対する考えです。質量をもち、物理法則に従う私の身体は、私にとっていつも透明で、見えぬ物であり、存在しているのではないかという意識はあるが、実感し得ぬ物なのです。この感じは、例えば、風呂に入っている時に、湯の中から手の付

いた腕を出しじっと見詰めていると自分の腕だという意識が薄れ（腕が客体化し）、その持ち主が誰だか分からなくなるのに似ています。では、今文字を書いているのは何者だ、ということになります。それは、ゆらゆらエネルギーではないかと思われまふ。この事が断言できないのは、私が私を実感しきれないからです。さて、本題に入り、ゆらゆらエネルギーになる為の料理法ですが、

（材料）

一、自分の五感が正常だと思っているヒト。
二、暗闇を作ることの出来る部屋。防音できればグッド。床がなければベスト。

三、電灯（正しく消えるもの）

四、防音設備の無い人は、真夜中という時刻。

（料理法）

兎に角この文章を最後まで読み、記述して下さい。本をちらちら見ながら料理を作るのは感心しません。それから心は平靜に、心が乱れていると料理は端から無理です。

さて、この文章を覚えたら、灯の役目は終わりです。部屋の中に坐り、灯を消して下さい。電灯が正常なら暗闇が出来、視覚を奪うことが出来ます。耳にはシンシンという血液が流れる音だけか聞こえるはず。心を私が言う方向に向ければ、そのうち感じなくなります。これで貴方の聴覚が失われたわけです。味覚

・嗅覚は、大して問題ではありませんが、どうしても動いてしまふ時には料理は中止して下さい。次に触覚ですが、これはまるめて窓の外へでも捨てて下さい。以上で下味は付いたわけです。

次からは、貴方次第です。やり方は簡単。何も考えないことです。唯これだけ。

(私の場合)

今や私は五感を失い、遂に想像力が支配を始めた。同時に、時は進むことを止める。在るのは私だけ。何を見るのも自由だ。しかし私が見ることの出来るのは、私の想像力が生み出した二次元の影のみ。それらには、質量はなく、勿論触れることはできぬ。それらは、私が在ると思えば、在るのだし、無いと思えば、立ち所に姿を失う。時間は無限に零に近く、同時に永遠に続くとも思える。そして激烈であった想像力が減退すると、嚴肅な静寂がすべてを私はすべてとしか言えない。文字に定着させることは困難であり、その困難さを言うことさえ無意味である。

この時、僅かな隙間から忍び込む時間の奴が、この料理の味を悪くしてしまいます。それは、体感する永遠の瞬間は、有限な生の一コマに過ぎないからです。私がこの線に寄っている間も時に追いつてられていることを意識していることが何よりの証拠です。

ところが、この事に対する調味料が一つ御座居ます。それは、「常に何もかもすべてのもを視、同時に何も視ない」という調味料です。

この調味料を用いる時には、注意が必要です。それは、あの有名なアリスが、落ちた穴を見つめることです。外に在る物をすべて、自分の見ることと、見ないこととの隙間に引きずりこんで、自分の内に一つの宇宙を造ってしまふのです。こうすると時間流は支えを失い、ひっくりかえってバラバラになってしまいます。適、この調味料は、劇薬ですので幼児の手の届かない所に保管して下さい。

これにて、本日の料理の手帳は終了で御座居ます。御清聴ありがとうございました。

甲 東水泳教室

T 25 佐 藤 弘 之

西宮市甲東地区の子供連(小学校高学年)を集めて母校(県立西宮高校)で水泳教室を開くのは昨年に元いて二度めである。指導に当たるのは泉西の水泳部の顧問の先生、OB、そして現役の部員である。期間は八月五日より五日間、午前九時開始。今年の参加者は五五人だった。

初日にはまず班分けを行った。よく泳げる子供の方から順に一班、二班……と全部で五つの班に分け、各班に指導者が二人ずついた。僕が受け持ったのは三班で、だいたい一五ノ二五米程度

の泳力の持ち主である。教える泳法はクロールと背泳。まず腰かけキック、続いて肘かけキック、そして壁キック、板キックと前もって計画されたメニューをこなさせていく。初日はほとんどキック練習ばかりだったので相当こたえたらしい。

二日め。今日は背泳の練習が主となる。最初は補助者がついて、つぎに自力での背面キック。胸を張り、腰を上げる、真上を見ろとやかましくどなる。キックの欠点としては膝を曲げて水面に出ず、いわゆる「自転車こぎ」をするものが多い。続いて陸上でのブルの練習。片手ずつやっているときはよかったが、両手のコンビネーションになるとみんな相当に悩んだようである。家に帰って鏡の前で練習してくるように言う。

三日め。昨日まではヘルパーを三つつけていたが今日は二つとなる。最初の人数は十人位だったのに四班から一挙に七人もあがってきたのでこちらも一班に三人あげることにした。(二班はすでに一班と同じ練習をしていた。)ところがみんな一班にあげるのをいやがるのである。それもそのはずで、一班は通称「競泳コース」で、一日に二五〇〇米位泳いでいる。それも全部一五米や二五米のダッシュである。そこをなんとかだめすかして一班にあげたと思つたら、今度は四班からあがってきた者の中で早く一班にあげると主張するのがある。まだ無理だからとすつてもききられない。最終日までには絶対にあげてやると約束して納得させたが、あげた者からは恨まれる。あげなかつたものからは突き上

げを食らう。散々である。

四日めともなると疲れが出てきたが、かなり反抗的態度をとる者が多くなる。そこで泳ぐ量を減らしてクラブスタートの練習をさせる。とぶというより落ちる子供が多く、中には足からとびこむものもある。こつちも疲労気味なのであまりやかましく言わない。

五日め。いよいよ最終日。一時間半ほどの練習の後、泳力テストを行なう。背泳とクロールをそれぞれ何回泳げるか計る。初めは全然泳げなかつた五班の子から始めた。指導員がついていきながら声援する。二五米で止まろうとするものを強制的にターンさせる。なかには五〇米泳いでまだ元気にターンする者もいて指導員を驚かせた。三班以上になると指導員がつかなくてもどんどん泳げる。いつまでも泳いでいてきりがないので五〇〇米前後でやめさせた。それにしても予想以上の成果だった。中でも一人、身体はよく浮くがキックが一米進むのに二〇秒も三〇秒もかかるという子がいたのだが、その子が背泳で五〇米を完泳した(させた?)のは最大の快挙だった。

五日間の水泳教室を終わって子供の上達の上達の早さに驚くとともに、水泳指導のむずかしさというものを改めておもいしらされた。この子たちが得た、もっと水泳がうまくなつて東西にはいり、そして神大の水泳部へ……というのには甘い考えだろうか。

甲東水泳教室

二年 浜 西 美智子

水泳部に入ってから、四ヶ月が過ぎた。もうやめようと思っていたのに、いつからかまたプールへ通うようになってしまった。昔ほどまじめではないけれど……。今年の最大の収穫はなんといっても、フリーでベストタイムができたことだ。専門はバックという事になっていくが、フリーがやりたくてしかたがない。二十才にもなってベストが出るなんて考えてもみなかったことなのに。ベストが出たときと、試合に勝てたときの喜びを久しぶりに味わえたような気がする。

そして、もう一つ、女子ではじめて水球をやったこと。最初はイヤでしかたがなかったけど、練習をやり始めてみると楽しかったし、やってよかったとも思っている。

来年の目標は、近国体、関西国公立ともに優勝することである
打倒京教大ノ

よしなしごと

屁 十 度

水泳部に入ってもう二回夏が終わりました。本当に早いものです。なのに記録なんて言えるものもなく、本当駄目ですねえ。

運動部なんて代物は、高校時代、文化部だったボクから見ると、別の世界だったんです。実業、全く違うんです。練習内容は勿論だけど、雰囲気っていろいろかなあ……。違うんですねえ。ミーティングにしても、全然違うし……。だから、今だに、戸惑うこともあるんです。でも、みんなはどうなんでしょうねえ。

毎日が退屈じゃありませんか。大学生なんですもんね。高校生が楽しそうに話してたり、中学生ぐらいのキャプトルが手をつないでたりしてるのを横目に、三宮を歩いて、どうして素直になれないのかなあと思ったんです。うらやましいなと思って、何かがそうさせてはくれないんです。ボクが右足を出すと、影が左足を出すような変な気分で……。退屈ですね。

興味のない人にはゴメンナサイ。ほんの少し……。退屈でもって、何をしてるかというレコードなんぞ聴いとるのです。ボクはお客様の事も考えて、女の子向きな優しいのからイライラの時の騒々しいの、失恋した時の悲しいのとジャンル別にもっていて、その日の気分を覚えて聴いとるのです。よければ、酒持参の上いらして下さい。煙草は買って下さい。因に、今「燃えよドラゴン」をきいてます。アチャーホッホッノ

或る人はボクをバーゲンの鬼と呼ぶ。しかし、これはいい事であって、こんな人のお嫁さんになる人はきっと幸せになるのです。

このクラブには、本当にボクが生まれて初めて見る人が多いんです。みんなのバートンナリチィに遠く毎日なんです。そして、一部のバートンナリチィは余りにボクを苦しめ、迫害するのです。みんなもっとやさしい言葉をかけて下さい。このままだと、ぐれでしまいます。

来年もまた頑張りますし、よう／＼ネエ?

部員紹介 (二年生)

丸末一之

フリーを泳ぐ長田出身のタフガイ。堂々たる体格から発せられるガラ声は上級生をも威圧するに十分。昨年は短距離を志望する本人の意志に反して長距離泳者を強いられたためか、練習よりもむしろ麻雀に精出することがしばしばあった。そのため雀士としての成長は著しいが……何かと文句の多い男であるが実力はあつた。だから今年こそは期待に応えてくれるだろう。

佐藤弘之

試合にも酒にもめっぽう強く、実力底知れない鉄人。都会的センスもあつたからにスマイマーという印象を受けるが気の弱そう

などところもある。骨相学的にみて彼のもつエラは最後までがんばり通す忍耐強さを誇示するものと思われ、事を処するにあつては人一倍慎重を期すはずのこの男、何故か学問では実力を出しきれない。個々を専門に泳ぐ。

毎田知正

山口県から出てきた長髪族で、水泳は初心者、浪人経験者。入部当初からフリー一筋に泳いでいるが、なにぶん体力のないのが最大の負い目。時々失脚し、忘れかけた頃不意に姿を現わすが、今年の春合宿は例の長期ブランクの直後とあつて相当こたえたようだ。しかし週休六日で励みに励んだ麻雀の腕は、武者修業のわかつてセミプロ級にこぎつけたとか。その勢いで練習にも臨んでもらいたい。

植上明夫

二年ブレスト陣の中軸を努めるファイトマン。体型からしてバタフライに向いているのではないかとの噂も聞かれるが、とにかくとこな上半身を生かしたダイナミックな泳ぎを見せてくれる。顔に似合わずデリケートな神経をもち、弱気な発言をして周囲を心配させる事もある。しかし根は明るくて人なつこく、コンバの時には彼のエンターティナーぶりが存分に発揮されるのです。

山田玲子

この人ほど第一印象と實際とがくい違つた人も珍しく、男子部員を落胆せしめた罪軽からず。とはいえ底ぬけに明るく活発、はきはした性格はうらやましい限りで、見習うべき点でもある。さわらぬ神に……的存在かと思えばさにあらず、悪いがけないときに女らしい一面をのぞかせるから心憎い。それにしても、キセルは男にまかせておいてもらいたいものだ。四種目ともこなすが専門はプレスト。

小林正文

ブリンの後輩、膳所高出身。一見、面白みの全くないもやし。(これはチト言いすぎ?) また目つきも良くなく、二度とは会いたくないと思つてしまつた私。しかし、これはちくまで一見で、実は……。(丸○君や○西君等とちがつて) 真面目、意外に行動力あり、それに優しいのです。この人は、二年生の中で最も信頼でき、かつその期待を裏切らない人。プレスト専門、初心者。

中西康之

口から先に生まれたような人生エンジョイ派。その楽天的性格から飲む・うつ・?の三条件をすぐに満たすかと思われたが、その後少々伸び悩み、目下 狂うのを悲願としていらつしい。クラブ一の愛煙家かつさぼりの名人で、いつも休養十分といつた

風情でプールサイドに出没する。でもちんまりさぼるとまたプールに放り込まれるよ。フリーを泳ぐ豊中高出身の奇行子。

伊藤良一

初心者にしては抜群に速いビートをうつ。へたに手を使うとかえつて遅くなるのではなからうか。体は水の抵抗をうけにくい流線型ならぬ流針型。しかし見かけによらず氣は長い。昨年は六甲台の冷水が身にこたえたのか無類の風呂好きであつたと記憶する。彼のズケズケ調の毒舌は言い得て妙。少々辛らつてはあつるが、思わず苦笑をさせよう。

中野勝之

氣まじめで善良なる小市民ということばが無理なく当てはまりそうだが、大阪の生まれにしてはやや消極的なのが氣にかかる。しかし人がよくておっとりしたところがまた魅力でもある。勉強熱心で雑学雑識らしいところも見られるが賭け事には無知無関心。現在までプレスト一本に全力投球している。新入生の実力を氣にすることなくこれからもがんばってもらいたいものだ。

新垣部男

四方を海に囲まれた沖繩県は首里高校の出身。いかにも南国育ちらしく小柄で、こんがりよく日焼けしている。ところがどろ

いわけか泳ぎは不得手という変わった部員。今まで練習そのものには余り顔を出さなかったが、こちらの気候に慣れなかったためだろうか。ふだんは無口だが酒が入ると情熱に雄弁をふるうから、彼と話したい人はじゅんじゅん飲ませるとよい。

水泳クラブ

A 9 酒 井 正 人

高校で初めて運動クラブに入って水泳をやった。ぼくは運動クラブの楽しさや重要性を知りました。だから大学へ入っても、運動クラブに入ろうと思っていました。ぼくが水泳部を選んだのはクラブへ入って充実した毎日をする事、もっともっと友達や先輩をつくり、いろいろと学ぼうと思ったこと、そしてやはり自分水泳が好きだということです。これからの抱負としては、ただ記録を伸ばせることまで伸ばすことです。学生時代に水泳部に所属していたしるしとして、賞状の一枚もとれたらと思っています。

大林良和君について

E 26 平 石 康

私は医学部の生徒というので、ガリ勉で、ドのきつい眼鏡をかけた、もやしみたいなのヤツだろうという先入観があったので、初めて彼に会った時は、本当にアレが医者なのかなと目を疑いました。北ノ湖にも劣らぬすばらしい体格、長髪で、プリントシャツにGパン姿、それにサングラス。そして彼の明朗な性格、ものおじしない行動力、人づきあいのうまさなど、たちまち彼は、神大水泳部の輝く星となったのであります。メデイカドライツェンボパイズなるサーカークラブを結成し、わが水泳部に「オウ、ナンテコッタイ」ブームを巻き起こしたり、また女子の憧れの的、かの大市大のキャブ宗司さんに、仕掛けて、キッチリ仕止めて、長年の神大のロングメンの屈辱を晴らしてくれました。また彼の顔の広さは大したもの、京大、阪大は勿論、はるか東大まで、彼の顔は知られております。もう神大の大林と云えば、知らない人の方が少ないでしょう。それから彼は、かなりの酒豪で、水泳部の中でも、ベスト3には、必ず数えられると思います。女の子の方も、この前マフラーをもらった子から電話がかかってきたなどと言っておりまして、かなり……ニクイ、ニクイ。現在、六

回目でやっと取った飯免を持っており、一年生専用車がでるのも、時間の問題となりました。

平石康君について

M 13 大 林 良 和

平石君が私の事を書いてくれるそのなので、私は彼の事を真面目に書いてみたいと思います。私が水泳部に入って、初めて彼を見た時、てっきり三年生だと思いました。だから、「こんにちは平石さん。」とか、「さようなら、平石さん」とか言っておったのであります。それ程、彼の顔には、威厳があふれているのであります。この事について、彼と同じ高校の出身者酒井君に尋ねた所、「平石は女で苦労していたからなる。やはり苦労は人間を偉大にするよ。」という答えが返ってきました。さて、彼が一年生であると分ってから、だんだんと親しくなつたのであります。最初の頃は、「なんとマジメな奴だろう。」と思つていたのですが、あの頃は錯をかぶっていたのです。現在、クラブを引退したボリは二年生の中西氏、丸末氏であります。平石君は一年生ながら両氏の後にピッタリとついていゝのです。平石のように堂々とさげれる奴になりたいものであるな。」とは、今や一年生の合言葉の如くなつています。しかしながら彼は、平泳ぎにかけては

右に出るものがないとまで、言われているのです。彼は姫路の山奥に住み、交通といえ、カゴシカないので、彼はもったいないと言つて、家から姫路まで、約三時間もかけて、走りぬくのであります。将来のキャプテンの座は彼に約束されておりますが、この闘志をもってすれば、きっと神大水泳部を大飛躍させてくれることでしょう。ガンバレ、平石君。

水泳とわたし

F 26 栗 野 正 子

今年もまた真黒に日焼けしてしまいました。高校時代、水泳部にいた頃は一年の時から早く引退したいと思ひ続け、三年になつて練習から解放されたときには、もう苦しまずにすむと安堵したはずなのに――。

そもそも私が水泳を始めるにあつては、リッパな動機なんてまったくありませんでした。高校に入學したての頃、クラブ見学でまったく偶然に最初、水泳部をのぞいたところ、ずい分と口のうまい先輩がいて、水泳をすれば背が高くなりスマートになる、これほど良いスポーツは他にない、初心者でもすぐに泳げるようになるからと、たくみに説明してくれたので、ついその気になつて、十メートル以上泳いだことのない私が、水泳部員となつてし

まったのでした。それまでの私にとっては、すいすいと泳ぐ人の姿は空を飛ぶ鳥のごとくにうらやましいもので、また尊敬に値するものでした。ですから漠然と泳げたらいいとは思っていませんが、まさか水泳部に入ろうなんて私自身にとっても、意外なことでした。このようにして私とプールとの関係が成立したのですが、高校時代のクラブは楽しいと言うよりはくり返したくはないと思えるものでした。

そして今、神戸大学水泳部の一員である私。入部した動機については「なんとなく」ということは一番多てはまるような気がします。けれどシーメンを終わろうとしている今、高校時代とはずい分異なったクラブの雰囲気を感じ、その雰囲気をも少し出している個性豊かな先輩方と交わることができ、また女子躍進のほんの小さなものですが、原動力となれたのだと思うと、水泳部に入ったこともまちがいではないかと思えます。

水との闘争の記録

A 9 高 木 史 子

五月二十二日 水泳部に入部

去年、山田百合子さんが水泳部に入ったと聞いて、「なんてすごい人だろ」と思っていたのに。「絶対に水泳部なんかに入るも

んか」と固く決意して入学したのに。あまりの暇さに、大林君からの電話一本で入部してしまった私。ある、無念。

六月二十六日 合宿終了

四日目はとうとう電池が切れてしまって、壁にぶらさがっていた。でも無事終わった。よかった、よかった。

しんどいしんどいと思う反面、ウキウキする私。私はいじめられることに喜びを感じているのだろうか。

七月十四日 関西国公立優勝

女子だけで京都に泊まった。ゆかたを着たら、むらむらとなったので、やってしまった。楽しい一夜を過ごした。でもすごく疲れた。トランプはほんとにおもしろい。

七月二十九日 旧三商大戦の次の日

気が付くとふとんの上であった。ガンとなった。と思つたら、頭とおでこに大きなたんこぶがあった。きのう何があったのだろう。ショック。もう二度とこんな事はしないんだから。これから寮に泊めてもらおう。

九月八日 ポロジュニア

赤塚山高とデビュー戦。三対一で負けてしまった。五回もシュートしたのに、成功したのは一回だけ。五回目、もうどうでもいいわい、と思つてメチャクチャ投げたら入っていた。グソッ、引退試合だったのに。

九月十二日

緑色の四角の中で、赤や白のかざりのついたひもにはさまれて、壁にぶちあたってはもがき、ぶちあたってはもがき、そいでもって、たまにはたまにとじゃれあつたりして過ぎた三ヶ月。

水からあがるとすぐ寂しい。誰もいないプールを見るのがすごくつらい。だんだんにごっていく水を、と書きたいけど、ずっとにごっていた。来年は少し位底の線が見えるといいな。

四十九年度「月見の宴」報告

本年度は九月十四日（土曜日）夕刻より六甲台プールサイドにて催されました。現役部員のこしらえた関東煮をつまみながら、古林喜楽会長を囲んで、多くの先輩の方々と一語に歓楽の一時を過ごしました。各々の自己紹介を経た後、この席を利用して競泳会幹事の萩原武氏（新10）より別記の提案がなされ、出席会員の賛同を得ました。その後宴もたけなわとなり、現役部員と先輩のBとの対抗歌合戦に及び、先輩方や優勝のうちに、夜八時頃終了いたしました。

豪当日、出席の先輩の方々（敬称略）

古林喜楽（高9）

石井義章（学22）

萩原武（新10）

山口仁郎（新5）

鈴木正弥（新12）

丸山昱也（新12）
玉置 明（新18）
菱田 徹（新18）
井上与志男（新18）
以西吉一（新18）
長谷川 健（新22）

萩原氏の提案事項

○年度行事に關して

一、定例水泳大会の復活

毎週土曜日にB一同に会して泳ぐ。場所は、これまで、かるもプールを「神鋼けんぼプール」に変更する。

神戸市灘区新在家南町二丁目二二二

「神鋼けんぼプール」

電話 ○七八一八八一八六五五

二、漫雪会のスキー大会

三月末に一同集いスキー大会を行なうはどうか。

○漫泳会会則に關して（若干の改正）

昭和四十九年度

凌泳総会議事録

昭和四十九年度凌泳総会は、五月十九日（日曜） 学生会館に於て

- 一、水泳部新入部員紹介
- 二、昭和四十八年度一般経過報告
- 三、昭和四十八年度決算報告
- 四、昭和四十九年度予算案審議
- 五、昭和四十九年度行事予定検討
- 六、その他の議題

の議題の下に開かれました。議事経過は次に略記します。

- 一、省略
- 二、省略
- 三、省略
- 四、省略
- 五、省略
- 六、その他

○凌泳会総会の在り方

- ・五月の気候の良い時期の日曜日に総会を行なうのは困難
- ・在阪のOBの数が減少しつつある。

・幹事より、予算・決算の報告書をOB諸氏に送付し、それを承認していただくという方法はどうか。

○幹事長

空席のまま

○年度別幹事

空席のまま

○会費値上げ

会費は据え置き、徴収率を向上する様に努力する。

○大阪支部幹事の追加変更

新18 玉置 明 新任

新18 井上与志男 武政英幸氏の転勤の為

昭和48年度決算報告

○ 浸泳会

収入		支出	
浸泳会費	246,500	「浸泳」発行費	55,000
寄付金	43,500	会合費	29,338
雑収入(10年前の郵便貯金)	1,018	通信費	29,320
	291,018	「浸泳」発送、総会案内 旧三商大戦案内、etc	
		交通費	6,000
		水泳部援助	151,360
		全国浸泳会基金積立	20,000
			291,018

○ 全国浸泳会基金

収入		支出	
昭和47年度積立繰越	20,000	なし	
昭和48年度積立金	20,000	次年度繰越	40,000
	40,000		

○ 水泳部

収入		支出	
前年度繰越	1,536	水連登録費	15,000
部員アルバイト	36,000	合宿費	424,695
育友会援助	40,040	会合費	130,090
浸泳会援助	151,360	試合練習費	44,620
部員負担金	461,500	交通・通信費	2,458
{ 合宿費 354,500 会合費 107,000	690,436	設備費・燃料費	33,410
		衛生費	17,170
		雑費	17,620
		次年度繰越	1,373
			690,436

昭和49年度予算

○ 凌泳会

収入

凌泳会費	270,000
寄付金	50,000
	320,000

支出

凌泳発行費	60,000
会合費	25,000
通信費	35,000
交通費	25,000
水泳部援助	155,000
全国凌泳会基金積立	20,000
	320,000

○ 全国凌泳会基金

収入

昭和48年度繰越	40,000
昭和49年度積立金	20,000
	60,000

支出

○ 水泳部

収入

前年度繰越	1,373
部員アルバイト	50,000
育友会援助	40,000
凌泳会援助	155,000
部員負担金	500,000
{	合宿費 400,000
	会合費 100,000
	746,373

支出

水運登録費	25,000
合宿費	425,000
会合費	100,000
設備費・燃料費	80,000
衛生費	25,000
交通・通信費	5,000
試合・練習費	70,000
雑費	16,373
	746,373

昭和49年度行事予定

4月 1日(月)～4月5日(金)	春季合宿(石川県山代温泉)
5月 14日(火)	新入生歓迎コンパ
5月 19日(日)	漫泳会総会
6月 9日(日)	兵庫県学生選手権
6月 22日(土)～6月26日(水)	第一次六甲台合宿 於神大六甲台合宿所
6月 30日(日)	関西水球選手権 於大阪市立大プール
7月 5日(金)・7月6日(土)	関西学生選手権 於真田山プール
7月 13日(土)・7月14日(日)	関西国公立戦 於京大プール
7月 28日(日)	旧三高大戦 於神大六甲台プール
8月中旬	第二次六甲台合宿 於六甲台合宿所
8月下旬 or 9月上旬	近畿地区国立大学体育大会(場所未定)
	大阪市立大戦 於神大六甲台プール
9月 1日(日)	京阪神三大学戦 於大阪扇町プール
9月 15日(日)	月見の宴

(未定 神戸商大戦 ボロジュニア戦 京阪神ジュニア戦)
(於神大)

菱 泳 会 会 則

第一條 (名稱) 第一章 總 則

第二條 (事務所) 本会は菱泳会と称する。

第三條 (目的) 本会は事務所を神戸市灘区六甲台町・神戸大学に置くこととし、宛名は同大学学生課気付「菱泳会」とする。本会は会員相互の連絡と親睦を図ると共に、神戸大学水泳部の発展に寄与することを目的とする。

第四條 (事業) 本会は前条の目的を達成する為に左記の事業を行なう。

一、会誌「菱泳」の発行

二、会員相互の連絡

三、定例総会及び各種の親睦会合

四、神戸大学水泳部発展の爲の指導及び援助

五、その他、本会の目的を達成するに必要な事項

第五條 (会則の改廃) 本会則の制定及び変更は総会の決議によって行なう。

第二章 会 員

第六條 (会 員) 本会の会員を分けて正会員、特別会員及び在学会員とする。

第七條 (正会員) 正会員とは次のものを云う。

国立神戸高等商業学校 国立神戸商業大学 神戸経済大学 神戸大学

以上の諸学校に於て、在学中水泳部に所属したもの。

特別会員とは次のものを云う。

一、前条の諸学校で水泳部々長及び副部長であった者及び現在ある者。

第八條 (特別会員)

第九條（在学会員）

二、その他、総会の決議によって推薦した者。
在学会員とは次のものを云う。

第十條（会費）

現在、神戸大学々生で水泳部に所属する者。
正会員は会費として年額二、五〇〇円を当会へ納入する。

第三章 役員

第十一條（役員）

本会には左記の役員を置く。

会長 一名

副会長 一名

幹事長 一名

本部幹事 若干名

支那幹事 若干名

会計幹事 二名以内

第十二條（改選）

役員は改選は総会の決議によって行なう。

第十三條（任期）

役員は任期は一年とし再選を妨げない。

第十四條（会長）

会長は本会を代表し且つ統轄する。

第十五條（副会長）

副会長は会長を補佐し、会長事故ある時はこれを代行する。

第十六條（幹事長及び本部幹事）

幹事長及び本部幹事は会長、副会長を補佐し総括的会務の執行に当る。

第十七條（支那幹事）

支那幹事は各支那の事務を執行すると共に、本部の諸活動に協力する。

第十八條（会計幹事）

会計幹事は会計の監査に当る。

第十九條（役員会）

会長、幹事長、本部幹事を以って、役員会を組織し、役員は決議に従い会務の運営に当る。

第二十條（招集）

役員会は会長これを招集する。

第四章 総 会

第二十一条（招 集）

総会は少くとも二週間以前に会議の目的を明らかにした通知を以って、会長これを招集する。

第二十二条（時 期）

総会は毎年五月に開催するものとし、臨時総会は必要に応じて招集する。

第二十三条（議 決）

総会の決議は出席会員の過半数を以って決する。

但し、当該議事につき、書面を以ってあらかじめ意志を表示したものは出席とみなす。

第五章 会 計

第二十四条（経 理）

本会の経理は、会費、寄附金及びその収入によって賄う。

第二十五条（決 算）

本会の収支決算については、会計の監査を経た上、春季総会に於て報告し、その承認を受ける。

第二十六条（期 間）

本会の会計年度は毎年四月一日より三月三十一日までとする。

第六章 雑 則

第二十七条

本会則は昭和三十九年五月十六日より発効する。

凌 泳 会 々 員 名 簿

昭和四十九年六月現在

編集後記

また夏が終わってしまいました。みんな一体どうしているのでしょうか。遅くなりましたが、夏泳第二十二号を何とか発行できました。大学へ入って一年半。ぶつかっても、謝る人の少ないのに驚くと同時に腹が立ちます。そして、淋しくなります。あなたはどうですか？ 怒りっぽい人の多いこと。そのくせ他人のことには無関心なんです。そして、物事を素直に受けとれなくなつて……でも、クラブではそんな事もないように思えるんですから不思議です。みんなの人徳のせいでしょうか？ それとも、私があるものでしょうか。とにかく、また夏はやってきます。来年のみんなの活躍を期待しています。

最後になりましたが、御要請のちった神大記録が資料不足もあり本号に間にあいませんでした。私の怠慢をここにおわび致します。

瀧 上 明 夫